

初級コースにおける SPOT の測定

木村 静子
国際大学

要旨

国際大学の日本語プログラムでは各レベルで SPOT を行っている。筆者が担当した初級コースでは 1 年に 2 回 SPOT を実施した。そこで、本稿ではこの 2 回の SPOT の結果を分析し、日本語能力の伸びがあったのかどうかを検証する。また SPOT で、被験者はどのような文法項目が聞き取れるのか、あるいは聞き取れないのかを観察する。最後に、SPOT は国際大学で行っているクオリファイングテストと併用して、上のレベルに入るための日本語能力を予測できるのかどうかを検証した。その結果、2 回目の SPOT を実施した時点で、SPOT 1 より日本語能力の伸びが見られ。また、既習の文法項目はよく聞き取れるが、未習の文法項目は聞き取れないということが証明されたし、SPOT は文法の能力をある程度予測できるということ、また、クオリファイングテストと併用できる可能性があるということがわかった。

キーワード：SPOT、期末試験、クオリファイングテスト、
文法能力、相関関係

0. はじめに

SPOT(Simple Performance-Oriented Test)は 1990 年に小林他によって開発された日本語能力を測定するテストである(小林、フォード丹羽、山元 1996)。SPOT には、表記(総ひらがな版、又は漢字かな交じり版)、文法の難易度、問題数が異なる何種類かの版¹があるが、テスト方法はどの版も同じである。それは、音声テープによって読み上げられるのと同じ文が以下の例のようにテスト用紙に書かれているのだが、その文中でひらがな 1 字が抜けて空欄になっている。よって、被験者は音声テープを聞きながら書かれた文を目で追い、空欄の()に聞こえた音を書いていくというものである。

- ・東京行きのバスはど()ですか。
- ・ニュースを聞き()びっくりしました。

小林他(1992)では、158 人に行ったプレースメントテストの各項目(文法・聴解・読解・漢字)及びその総合点と、SPOT との相関関係を調べ、SPOT はプレースメントテストの文法及び総合点と特に相関が高いという結果から、既習の文法項目は聞き取れるが未習の文法項目は聞き取れないということがテスト結果から明らかになったとしている。

竹内（2002）は年に3回各学期ごとに行った SPOT の結果と、各学期のクイズ、中間テスト、期末テストなどの相関を調べたが、どれも相関関係は低いという結果であった。但し被験者が3回とも10人以下と少ないということは考慮すべき点であると思う。

国際大学日本語プログラムでは各レベル²でこのテストを行っているが、本稿では筆者が担当した初級コースで行った SPOT について以下の三点について考察する。

- ① 初級のコースでは年に2回 SPOT を行った。その2回のテストを分析し、アチーブメントテスト以外のテストで、日本語能力の伸びがみられるかどうかを考察する。
- ② 小林他（1992）では、知っている文法項目は聞き取れるが、知らない文法項目は聞き取れないということを実証するために SPOT の結果を分析し立証した。しかし、いろいろな日本語学習暦を持った学生に対して SPOT を実施したので、どんな文法項目が知らない項目なのかを調べるのは困難であったと思われる。そこで、本稿ではどんな文法項目ができたのか、あるいはできなかったのかを、初級で学習した文法項目と照らし合わせて調べ、既習の文法項目は聞き取れるが、未習の文法項目は聞き取れないということを検証する。
- ③ 小林他（1992）では、SPOT とブレースメントテストの文法及び総合点との相関が高かった。つまりは、クラス分けなどの際に SPOT は利用することができることを示している。国際大学では学年の初めに各レベルに入るためにクオリファイイングテストを行っている。これは、ブレースメントテストと異なり、レベルごとに異なったテストを行う。そのテストの内容は、そのレベルに入るために十分な（あるいは最低限の）能力があるかどうかを測るものであり、アチーブメントテストの要素がたぶんにあるものである。つまり、初級のレベルが終った学生が中級に入るためには、初級で学習した内容のクオリファイイングテストを行う。また初級の2学期目から入りたい学生には1学期の期末テストとほぼ同じものをクオリファイイングテストの内容とする。そこで、初級の3学期目の期末テストの結果と SPOT との相関を調べ、中級に入るために有効な情報があたえられるのかどうかを調べる。

1. 調査方法

1-1. 調査時期とテストの内容

本稿の考察の対象としたのは SPOT と学期末に行った期末試験である。初級コースはほとんどゼロレベルからスタートし、1年間（3学期）で、初級の文法項目を終えるコースであり、授業は週に5回³、1学期は9週間のコースである。従って、1学期目の初めはひらがながやっと読み書きできる程度であり、SPOT を行うのは無理なため、SPOT は2学期の初めと3学期の終わり、つまり1月初旬と6月中旬の2回行った⁴。使用したのは SPOT の ver.B で、ver.A と比べると難易度が低い。表記は漢字かな交じり文で、漢字にはルビがふってある。質問は全部で60問あり、初めに練習が10問ある。テープは学生に一回しか聞かせなかった。また、試験問題のページをめくるために途中で1秒くらい止めたが、それ以外はテープを止めることことはなかった。このテストにかかった時間は初め

の練習問題も含めて 10 分程度である。

一方の期末試験は、各学期の終わりに行っているのだが、本稿では 1 学期の終わり（12 月上旬）と 3 学期の終わり（6 月中旬）に行った期末テストの結果を分析した。この試験はアチーブメントテストであり、文法、聴解、漢字の試験を行った。試験にかかった時間は約 2 時間である。SPOT と期末試験の実施時期の一覧は以下の通りである。なお、以後 1 回目の SPOT を SPOT 1、2 回目の SPOT を SPOT 2 とする。また、1 学期目の期末試験を期末試験 1、3 学期目の期末試験を期末試験 2 とする。

表 1 SPOT と期末試験の実施時期

	SPOT	期末試験
1	1 月初旬 (2 学期目の初め)	12 月中旬 (1 学期目の終わり)
2	6 月中旬 (3 学期目の終わり)	6 月中旬 (3 学期目の終わり)

1-2. 被験者

被験者は国際大学で日本語プログラムの初級コースを履修している大学院生である。SPOT は授業中に行ったため、その日欠席した学生はこのテストを受けなかった。その結果、SPOT と期末試験を受けた被験者の数は違っている。SPOT 1 の受験者は 18 名であり、SPOT 2 は 23 名であった。なお、SPOT 1、2 の両方を受験した被験者は 12 名であった。期末試験の受験者数は期末試験 1 は 30 名であり、期末試験 2 は 27 名であった。なお、分析にあたっては SPOT も期末試験も、SPOT 1、2 の両方を受験した 12 名の結果を対象とすることにした。

表 2 SPOT と期末試験の受験者数

	SPOT	期末試験
1	18 名	30 名
2	23 名	27 名

(但し SPOT1、2 の両方受けたのは 12 名)

2. 結果と考察

まず、SPOT の結果から報告する。SPOT 1 と SPOT 2 の結果は以下の表 3 のようになった。SPOT の質問は 60 問であり、60 点満点である。

表3 SPOT 1、2の結果 (60 点満点)

ID	SPOT1	SPOT2
1	32	54
2	40	50
3	10	34
4	31	47
5	10	38
6	31	39
7	25	39
8	18	42
9	22	45
10	26	45
11	29	49
12	8	25

次に表4は SPOT 1、2 の記述統計値である。

表4 SPOT 1、2の結果

SPOT	n	項目数	平均値	最頻値	中央値	低-高	範囲	SD
1	12	60	23.50	10	25.50	8-40	32	10.15
2	12	60	42.25	39	43.50	25-54	29	7.90

この結果を見ると、SPOT 2の平均値、最頻値、中央値、最低、最高、いずれも SPOT 1より高くなっていることがわかる。特に最頻値と最低値は非常にあがっている。一方、SPOT 2の範囲、及び標準偏差値は SPOT 1より低いことから、得点の分散のしかたが少なくなっていることがわかる。つまり、被験者の下のレベルがかなり上にあがる共に全体のレベルもあがったことにより、平均値が高くなった。そして得点のばらつきが減ったということである。では次に SPOT 1と2では有意な差があるかどうかを調べるためにも検定を行ってみた。その結果、5%水準で有意な差があることがわかった。

表5

	平均値の差	自由度	t 値	P 値 (上側確率)	t(0.95)
SPOT 1, SPOT 2	-18.75	11	-11.920	1	1.796

次に、SPOT 1、2の正解、不正解について観察する。ここでは、正解、不正解の文法項目は既習なのか、未習なのかということ調べ、果たして学習している文法項目は聞き取れ、学習していない文法項目は聞き取れないのかということを検証する。不正解は 12人中 2/3 以上が不正解とした、言い換えれば 1/3 しか正解がなかった (正解率 33%以

下) 項目を取り上げる⁵⁾。正解も 12 人中 2/3 以上が正解した項目を取り上げることにするとそれは正解率 67%であり、決して高い正解率とは言えない。正解率が 80 以上であれば高い正解率と言っても構わないと思うので、12 人中 10 人が正解した(正解率 83%以上)項目を取り上げることにした。

表 6

	正解率 83%以上	正解率 83%以上のうち未習のもの	正解率 33%以下	正解率 33%以下のうち既習のもの
SPOT 1	5 項目	3 項目	31 項目	6 項目
SPOT 2	28 項目	3 項目	9 項目	5 項目

SPOT 1 では正解率が 83%以上のものは 5 項目しかなかった。そのうち、3 項目は 2 学期の初めの時点で未習であった。その 3 項目は以下の通りである。

- Q29 お帰り (に) になりますか。 (正解率 83%)
 Q35 金曜日まで (に) (正解率 92%)
 Q49 友だち (に) なにをもらいましたか。 (正解率 83%)

未習の文法項目でありながら聞き取れたのは用法は違うもののすべて「に」であった。音の組み合わせとして聞き取りやすいのだろうか。一方、正解率が 33%以下の項目、言い換えれば 12 人中 2/3 以上が間違えた文法項目を見てみると、31 項目あった。つまり 60 問中約半分の正解率が非常に悪かったということである。この 31 項目中、既習のものは 6 項目であり、25 項目は未習であった。既習でありながら多くの被験者が聞き取れなかった項目は以下のものである。

- Q2 何 (が) 入っているんですか (正解率 33%)
 Q4 きれいな (の) は (正解率 17%)
 Q6 部屋に (い) ます。 (正解率 25%)
 Q12 どこ (か) 行きませんか (正解率 33%)
 Q20 少し (し) かない (正解率 17%)
 Q21 ニュースを聞き (て)、びっくりしました (正解率 33%)

特に正解率の低い Q4 の「きれいな (の) は」と Q20 の「少し (し) かない」は、日ごろあまり耳にする機会がないと思われるし、既習とはいえ、テープなしで文法問題としてさせても正解率は低いのもかもしれない。しかし、Q2 の「何 (が)」、Q6 の「部屋に (い) ます」、そして Q21 の「ニュースを聞き (て)」は日常生活でもよく聞くしやさしいと思うのだが、聞き取りにくいようであった。

では、次に SPOT 2 の結果を見てみると、正解率 83%以上は 28 項目に増えていた。このうち未習のものは以下に示す 3 項目⁶⁾のみで外の 25 項目は既習であった。このことは習

ったものはよく聞き取れる、ということを示していると言えるだろう。

- Q8 開けて (あ) ります。 (正解率 92%)
Q31 食べ (さ) せました。 (正解率 83%)
Q33 帰った (と) ころです。 (正解率 92%)

一方、正解率の低い項目を調べてみると正解率 33%以下の項目は 9 項目に減ったが、このうち 5 項目は既習のものであった。以下はその 5 項目である。

- Q2 何 (が) 入っているんですか。 (正解率 33%)
Q4 きれいな (の) は (正解率 25%)
Q15 読んで (お) いてください (正解率 0%)
Q20 少し (し) かない (正解率 33%)
Q39 値段も安い (し) (正解率 25%)

Q2 の「何 (が)」、Q4 の「きれいな (の) は」、そして Q20 の「少し (し) かない」は SPOT 1 でも正解率が悪く、SPOT 2 になっても向上していない。これらは 1 学期目に習う文法項目で、その中でも Q2 はむしろかしいとは思えないので、正解率が低いのが不思議である。以上の 5 項目のうち、正解率 0% の Q15 以外の項目について学生がどのような答え方をしているのかを SPOT 2 で見てみると次のようであった。

Q2 「何 (が) 入っているんですか」:

何 (人)、何 (と)、何 (か)、何 (X) (2 人)、何 (に) (3 人)

Q4 「きれいな (の) はありませんか」

きれいな (が) は、きれいな (は) は、きれいな (で) は、
きれいな (い) は (2 人)、きれいな (X) は (4 人)

Q20 「お金が少し (し) かないから」

少し (X) かない、少し (い) かない (7 人)

Q39 「値段も安い (し)、いいですよ」

安い (て)、安い (ち)、安い (ん)、安い (で)、安い (い)、
安い (ひ) 2 人、安い (X) 2 人、

Q2 は「何 (が)」の「が」は鼻音化しているので、「か」と聞き間違えているのかと思っただが、「か」と答えたのは一人のみであった。しかし、この質問の正解ではないが、「何か入っているんですか」は文法としては正しいので、聞き間違えではなく、文法を考えて答えた可能性もある。同様に、正解ではないが、「何 (人)」も文法は正しいし、口語では、

「何 (X) 入っているんですか」も可能である。「何 (に)」と答えた被験者が三人いたが、これは「なにが」の「が」が鼻音化のために聞き取りにくく、「が」の代わりに、「なにが」の「に」が耳に残ったためかもしれない。文法能力が弱い場合は文法の正しさを考えずに耳に残ったものを書く傾向があるのかもしれない。

Q4の「きれいな (の) は」は、どうしてこのような答えになったのかは推測できかねるが、どの答えも文法が正しくないので、この文法項目が定着していないことを表していると考えられる。

Q20の「少し (し) かないから」も文法がわかっていないために、わからず空欄にしたのと、また、耳にのこったものを書いたと思われる。「少し (い) かないから」は、「sukoshishika」の1、2番目の「sh」の部分が聞き取りにくく「i」のみが耳に残って書いたのではないかと思われる。

Q39のうち、「安い (て)」は「い形容詞くて」から、「安い (て)」は「な形容詞で」からの間違いと想像され、文法を考えた上での間違いと思われる。「安い (ち)」と答えたのはインドの学生で、日頃「し」と「ち」の区別ができないので、「し」を「ち」と聞き間違えたものと思われる。その他はどうしてこのような答えになったのか推察できない。

正解率が0%であったQ15の「読んで (お) いてください」は、3学期に習った文法項目であり、比較的新しいものであるので覚えていそうなものだが、だれも正しく記入できなかったというのは意外であった。SPOT1の時点ではこの「～ておく」は未習だったので正解率が低いのは当然と言えば当然だが、SPOT1でもQ15の正解率は0%であった。ちなみにSPOT1、2ともに正解率が0%だったのはQ15とQ32の「『経済学』っ (て) という本」であった。Q32は「～という名詞」は学習したが、口語体の「～っていう名詞」は未習なので、できなかったと思われる。

Q15と32は正解率が0%であったが、では一方SPOT2ですべての被験者が正解だったもの、つまり正解率が100%であったものは以下の5項目であった。

Q7 新聞 (を) 読みます

Q18 見 (に) 行きませんか。

Q22 よくわからないんです (が)、教えてください。

Q23 食べ (ま) しょう。

Q29 お帰り (に) なりますか。

上の項目のうち、Q23の「食べ (ま) しょう」は、SPOT1でも全員正解であったので、文法としてやさしいのか、あるいは音として「たべま」の「べま」が聞き取りやすいかのどちらかが要因としてあるのではないかと思われる。上の5項目が全員正解だったということは、この項目が、成績のいい学生と、成績の悪い学生を弁別することができないということを表しているのではないかと思われる。

一方SPOT2で全員が不正解だったQ15と32は、このレベルの学生の日本語能力を測るにはむずかしすぎるのではないだろうか。Q15の「～おく」は初級の文法項目ではあるが、学生にとっては難しいようである。このQ15は分析対象の、SPOT1と2を受験し

た 12 名に限らず、SPOT 2 を受験した 23 名全員が不正解であった。また、このテストレベルで能力を測る学生にとって Q32 の口語体の「～っていう名詞」もむずかしいのではないだろうか。初級が終る程度の学生にはこのような表現を聞くチャンスはないと思われるし、初級の学習項目でもないので、できなかったと思われる。

最後に SPOT と期末試験の相関関係を分析し、SPOT がクオリファイイングテストとして使用できるかどうかの可能性をさぐってみる。まず、SPOT 1 を実施したのが 2 学期の初め、1 月の初旬であったので、SPOT 1 と 12 月の中旬に行った期末試験 1 の相関をピアソンの相関係数で調べてみると以下のような結果になった。

表 7 SPOT 1 と 1 学期目の期末試験との相関

	文法	聴解	漢字	総合点
SPOT 1	0.64	0.31	0.67	0.69

SPOT 2 は 6 月中旬に行われたので、SPOT 2 の 1 週間後に実施された期末試験 2 との相関を調べてみた結果以下のようなになった。

表 8 SPOT 2 と 3 学期目の期末テストとの相関

	文法	聴解	漢字	総合点
SPOT 2	0.77	0.31	0.63	0.69

この結果を見ると SPOT 1 では総合点と、SPOT 2 では文法との相関が一番高く、聴解との相関が一番低いことがわかる。文法との相関は SPOT 1 では 0.64 なので、それほど強いとは言えないが、決して低いともいえない。SPOT 2 では文法との相関係数は 0.77 なので非常に強いというわけではないが、強いという範囲に入れてもよいと思われる。漢字との相関はそれほど高くはないものの相関係数は SPOT 1 で 0.67、SPOT 2 で 0.63 であり、これも決して低いとは言えない。テストで使用した SPOT の Ver.B は漢字にふりがながふってあるので、漢字はテストの結果に作用しないと思われるが、しかしテープを聞きながら質問の文章を目で追っていく時に、ふりがなを読むよりは漢字で認識していくほうが早く文章を追うことができ有利なのかもしれない。聴解との相関は他の項目と比べると極端に低く 0.31 であり、これはほとんど相関がないと言える。これは SPOT では、聞く能力がほとんど要求されないということなのであろうか。これを考えるのに、期末試験 1、2 それぞれの文法と聴解の相関関係を調べてみると表 9 のようになった。

表 9 期末試験の文法と聴解の相関係数

	期末試験 1	期末試験 2
期末文法・聴解	0.31	0.62

期末試験1では文法と聴解の相関係数は低く0.31であることから、この二つの相関はほとんどないと言える。しかし、期末試験2では相関係数は0.62で、相関関係は多少あると言ってもよいだろう。このことから、ある程度日本語の学習が進んだ時、聞き取りの力をつけるためには文法能力が必要であり、逆に、文法能力が低ければ聞き取り能力も弱いということが言えるだろう。そして、SPOTと文法の相関がある程度強いということが言え、SPOTと聴解の相関関係がほとんどないということから、SPOTはやはり文法能力を測っていると言えるのではないだろうか。すると、SPOTをクオリファイイングテストと併用できるかどうかということでは、学習者の文法能力を測るためにアチーブメント的要素の強いクオリファイイングテストだけではなく、SPOTも学生の文法能力を予測するのに有効であると思われる。ではSPOTでどのくらいの点数を取ればよいのだろうかということである。初級が終った学生が中級に入るためには、クオリファイイングテストで60%を要求するが、SPOTではどのくらいの点数を取っていれば中級に入る資格があるのかということを考えるために、SPOT2を成績順に3つのグループに分け、期末試験2の文法のテストと共に表にすると以下の表10のようになった。

受験者が12名でデータとしては少ないので、明確なことは言えないが、試験としての最低合格点は60点であり、それに近い59.20を下位グループに属するID番号7の被験者が期末試験2の文法でとっている。そして、そのID7のSPOTの得点を見ると39であり、中位グループの一番下のID6も同じ39を取っている。従って、SPOTを、国際大学の中級に入るためのクオリファイイングテストと併用して使う場合、39点を最低ラインとしてもよいのではないかと、この結果から思われる。

表10

	ID	SPOT 2 (60点満点)	期末試験2(文法) (100点満点)
上位 グループ	1	54	95
	2	50	60
	11	49	68.40
	4	47	85.73
中位 グループ	10	45	89.73
	9	45	69.73
	8	42	82.93
	6	39	76.
下位 グループ	7	39	59.20
	5	38	75.47
	3	34	40.00
	12	25	16.67

3. まとめ

本稿では3つの質問に答えるべく、SPOTと期末試験の結果を分析した。まず、SPOT2はSPOT1より日本語能力が伸びているのかどうかという初めの質問では、日本語能力

が向上していることが立証された。SPOT 1 を行って約半年後に SPOT 2 を行っているし、その間日本語の授業は毎日 90 分あるので日本語の能力は伸びて当然であるが、データ上でも立証されたわけである。

次に、既習の文法項目は聞き取れ、未習の文法項目は聞き取れないのだろうかということを検証してみた。小林他 (1992) では、SPOT とプレースメントテストの各項目との相関関係を調べ、文法及び総合点との相関が高いことを示した。そして、知っている文法項目は聞き取れて、知らない文法項目は聞き取れない、ということを実証した。更に、プレースメントテストの結果を基に得点順に 4 つのグループに分け、SPOT の各項目の正答率を出している。そして、高難度の文法は文法力の高い学生には聞き取れても、文法力の低い学生には聞き取れないこと、また、やさしい定着のよい初級文法は文法力の低い学生にも聞き取れるという結果を出した。そこで本稿では、被験者の学習暦は、小林他(1992)のいろいろな学習暦を持つ被験者と異なり、初級の最初のレベルから始めた学生であり、果たして聞き取れない文法項目は未習のものなのかどうか、また、聞き取れる文法項目は既習のものなのかどうかを調べてみた。その結果、基本的には小林他と同じなのであるが、日本語能力が低い時には、正解率が高い文法項目のうち、未習の項目の占める割合が高く、日本語能力があがると、知っている文法項目はよく聞き取れるようになる、という結果を得た。一方、正解率が低い文法項目を見てみると、日本語能力が低い場合には未習の文法項目は聞き取れないが、日本語能力があがってくると、既習のものでも聞き取れない割合が増えてくることがわかった。そして、被験者の間違いを見てみると、正確に文法が定着していないことによる間違いと、文法がわからないので、耳に残った音を書きってしまったと思われる間違い、また、文法もわからず音も聞き取れずで構文的に不正確な間違いというのがあった。

最後に、SPOT を国際大学で行っているクオリファイングテストと併用して使えるかどうかということであるが、SPOT と期末試験の文法との相関は比較的強かったので、被験者の文法能力はある程度予測できると言える。では、SPOT でどのくらいの点数をとれば中級に入れるくらいの文法能力があると言えるのかということであるが、それは 39 点くらいが妥当なのではないか、という結果を得た。しかし、本稿の被験者は 12 名と少ないこと、また、SPOT と期末試験の相関を見たのであるが、SPOT は集団基準準拠テストであり、期末試験は目標基準準拠テスト、いわゆるアチーブメントテストであり、この二つはテストの目的が違うということがある。従って、被験者を増やし、クオリファイングテストに集団基準準拠テストの正確なものを入れて研究してみることを今後の課題としたい。

注

- 1 フォード丹羽、小林、山元 (1995) に詳細が書かれている。
- 2 国際大学日本語プログラムには基礎、初級、中級、上級レベルがある。基礎レベルと初級レベルはどちらも初級コースなのであるが、基礎は週に 3 回、初級は週に 5 回のコースである。本文で用いられる「初級コース」という用語は、特別の断りがない限り、基礎レベルではなく、初級レベルのコースを指すものとする。
- 3 2002 年度は秋と冬学期は週に 5 回に授業の外に週に一度漢字クラスがあった。なお、1 回の授業時間は 90 分であった。

- 4 国際大学の年度は9月に始まり、6月に終了する。そして1学期目は9月から12月までで、2学期目は1月から3月、3学期目は4月から6月までである。
- 5 被験者全員の解答、及びテストの項目、また、テスト項目とその項目が国際大学で使用した教科書ではどの課であったかを示す表は資料に載せた。
- 6 この未習の3項目は一般的には初級の文法項目であるが、国際大学の初級コースで使用した教科書では扱われなかったものである。

参考文献

- 小林典子・フォード順子(1992)「文法項目の音声聴取に関する実証的研究」『日本語教育』78、日本語教育学会 167-177
- 小林典子・フォード丹羽順子・山元啓志(1996)「日本語能力の新しい測定法[SPOT]」『世界の日本語教育』6、国際交流基金 201-218
- 小林典子・山元啓志(1997)「日本語能力の測定—学習者特性とSPOT得点の関係—」『日本語教育論集』12、筑波大学留学生センター 125-137
- フォード丹羽順子・小林典子・山元啓志(1995)「日本語能力簡易試験(SPOT)は何を測定しているのか—音声テープの要因の解析—」『日本語教育』86、日本語教育学会 93-102
- 竹内明弘(2002)「日本語上級コースの実践報告とSPOTの縦断的測定結果」*Working Papers on Language Acquisition and Education*, 12 国際大学 93-109

Appendix 1

第1回目のスポットと Elementary 1 の期末試験の結果

ID	2003年1月 第1回目の SPOTの結果 /60	2002年12月 期末試験 文法 /100	2002年12月 期末試験 聴解 /100	2002年12月 期末試験 漢字 /100
1	32	94.3	100	97.5
2	40	92.5	84	92.5
3	10	56.5	64	71.3
4	31	83.7	62	99.2
5	10	89.2	72	96.7
6	31	88	68	100.0
7	25	64.3	72	83.3
8	18	87.9	64	63.3
9	22	73.4	96	83.3
10	26	91.5	96	99.2
11	29	93.9	92	91.7
12	8	52	80	53.8

第2回目のスポットと Elementary 3 の期末試験の結果

	2003年6月 第2回目の SPOTの結果 /60	2003年6月 期末試験 文法 /100	2003年6月 期末試験 聴解 /100	2003年6月 期末試験 漢字 /100
1	54	95.6	100.0	90.8
2	50	60.0	72.0	77.5
3	34	40.4	76.0	10.0
4	47	85.7	80.0	87.5
5	38	75.5	100.0	95.0
6	39	76.0	92.0	99.2
7	39	59.2	88.0	85.0
8	42	82.9	84.0	92.5
9	45	69.7	96.0	88.3
10	45	89.7	92.0	99.2
11	49	68.4	88.0	91.7
12	25	16.7	76.0	31.7